

2026年度 スクールカウンセラーのための勉強会

主催：なら思春期・不登校支援研究所



オンライン開催

2021年度から始まったこの勉強会は、今年度で6年目を迎え、今年度も、昨年度お迎えした先生方と、また新しい先生方もお迎えして、学びの場を提供いたします。開催初年度はコロナ禍によってオンライン開催となりましたが、オンラインとなったことによって日本各地から教育現場で臨床をされている方々にご参加いただきました。「スクールカウンセラーのための勉強会」となっていますが、実際には教員や教育現場に関わっているさまざまな職種の方にご参加いただき職種をこえて学び合う機会となっています。日々、教育現場で起こるさまざまな課題に対し、専門職として仕事を続けるには、学び続ける意欲と安心して支え合える仲間が必要です。ぜひ奮ってご参加ください。

< 専門家から学ぶ 現場で役立つ実践と勘どころ >

日程 月1回日曜日 年10回開催（前期5回、後期5回）

2026年 5月10日・6月14日・7月12日・8月9日・9月13日（前期5回）

2026年 10月11日・11月8日・12月13日 2027年 1月10日・2月14日（後期5回）

● オンラインによるライブ配信 毎回 AM10:00～12:00

	（すべて日曜日）	担当講師の先生	タイトル
1	2026年5月10日	杉原保史先生	学派を横断して共通する治療要因のいろいろ ー現在の教育・訓練において注目度は低いが重要なものー
2	6月14日	岡留美子先生	レジリエンスに働きかける～言葉、そしてそれ以外のもの
3	7月12日	野坂祐子先生	被害や逆境の影響を理解した支援 ー学校におけるトラウマインフォームドケアの実践ー
4	8月9日	岩宮恵子先生	「解離っぽい」ことの裏側にあるもの
5	9月13日	水野治久先生	チーム学校時代のスクールカウンセリング ーscの学校への入り方・連携の仕方
6	10月11日	松本俊彦先生	子どもの自傷と自殺
7	11月8日	石田達也先生	（仮）いじめ自死事件の担当弁護士から見た スクールカウンセラーの問題点と可能性
8	12月13日	串崎真志先生	繊細さ（HSP）と不登校
9	2027年1月10日	伊丹昌一先生	発達障害児の自尊感情を高める
10	2月14日	新井肇先生	いじめの重大事態への対応 ー「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」の改訂をふまえてー

お申し込み方法

メールフォームに下記の項目を明記ください

申し込み先：右のメールフォームもしくはQRコード より

※締切：2026年4月26日（日） 定員80名

< 先着順、定員になり次第締め切ります >

申し込みメールフォーム

<https://forms.gle/wr65TTKaA3ebUzWi6>

メールフォームに下記の項目を明記ください

- 1) 返信用アドレス（資料添付が可能なもの）
- 2) 氏名 3) フリガナ 4) 携帯番号
- 5) 参加希望 全10回 前期のみ 後期のみ
- 6) 職種 7) 勤務地または居住地
- 8) お持ちの方は臨床心理士番号
- 9) この勉強会を知ったきっかけ

お申し込み
QRコード



* 原則としてオンデマンド配信は致しませんのでご了承ください

○ 対象者 教育現場など子どもに関わる専門職の方
（SC、SSW、教員など守秘義務を守れる方）

○ 参加費 前期5回 25,000円、後期5回 25,000円
全10回 申し込みの場合 45,000円

* 臨床心理士資格更新ポイント申請予定（通年受講のみ）

* 振込みが確認されてから
申し込みが確定します

* 振込先は、お申込みの後
メールにてお知らせいたします

お問い合わせ先

なら思春期・不登校支援研究所

sayurikuri@gmail.com 研修担当栗本まで



前期 担当講師・講義内容

1回目 5月10日 杉原保史先生 京都大学 学生総合支援機構 学生相談部門部門長

学派を横断して共通する治療要因という、まず最初に注目されるのは、共感や治療同盟など、治療関係に関わるものであることが多いです。けれども、共通の治療要因はこれらにとどまるものではありません。現在のカウンセリングの教育・訓練においてはあまり注目されていないけれども、實際上、カウンセリングの効果を大きく影響し、中断を防ぐために重要なものとして、今回は、「クライアントの期待や希望を高める働きかけ」と「クライアントの好みや文化にセラピーを適合させる姿勢」について取り上げたいと思います。

2回目 6月14日 岡留美子先生 岡クリニック院長 精神科医

子どもをめぐる厳しい状況が続いています。私たちは支援者として子どもたちの現状を見据え、ケアを提供します。カウンセリングは言葉によるケア／働きかけが主ですが、その言葉をどう使っていくか、そして言葉によるケア以外にも何ができるかを見据えていく必要があります。子どものレジリエンス発揮のために何ができるか、あの手この手を一緒に考えましょう。

3回目 7月12日 野坂祐子先生 大阪大学大学院 人間科学研究科教授

家庭での虐待やネグレクト、学校や地域でのいじめや性暴力といったトラウマ体験のほか、見通しの持てない不安定な逆境的環境で育つことは、子どもの心身の健康や対人関係、社会生活など、発達・成長に影響を与えます。こうしたトラウマの影響を理解して関わるトラウマインフォームドケア（TIC）の観点から、学校でできる支援や取り組みについて学びます。

4回目 8月9日 岩宮恵子先生 島根大学ころとそだちの相談センター特任教授・にしきまちオフィス所長

周囲が「確かに起きた」と認識している出来事であるにもかかわらず、本人は「やっていない」と言い張ることがあります。そこには意図的な嘘や反抗とは少し質が違うものを感じることがあります。自分の言ったことしたことなどを覚えていない、知らないうちにリスカ（やODを）していたなど、大人の目には「ごまかし」「うそ」に映るこれらの言動の裏側には何があるのでしょうか。こんな時に彼らの心のなかでは何が起きているのか、「解離っぽい」という視点から、学校という日常の文脈に引き寄せて考えていきたいと思います。

5回目 9月13日 水野治久先生 大阪教育大学副学長、学校教育学研究科教授

チーム学校時代のスクールカウンセリングは、個別の面接を大切にしながらも、教師と連携していくことが期待されています。ただし、まだ勤務が限定的なSCにとって、学校へどう入るのかは大きなテーマです。この研修では学校心理学や援助要請研究の知見から、SCがどのように学校に入るのか、教師のどのようにコンサルテーションを進めていくのか、教師の力をどうSCの援助に活かすのかについて考えていきたいと思います。

後期 担当講師・講義内容



6回目 10月11日 松本俊彦先生 国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部部長

思春期の子どもにしばしば見られるリストカットや市販薬オーバードーズの実態、自殺との関係について理解を深め、その対応の基礎について学びます。

7回目 11月18日 石田達也先生 滋賀弁護士会・吉原稔法律事務所所属

いじめ認知件数は全国的に増加傾向にあり、SCとしていじめ問題に向き合う場面も増えている。いじめ防止対策推進法施行から10年以上経過してもなお法の趣旨が教育現場に浸透しているとは言いがたい現状がある。実際のいじめ自死事案を通じて、法に沿った対応の重要性和ポイントを学ぶ機会としたい。

8回目 12月13日 串崎真志先生 関西大学 文学部教授

HSP（繊細な人）は環境からの刺激に反応しやすい人たちです。不登校の子どものうち4割が繊細な特性をもちますが、カウンセリングに来るときには不安・抑うつ症状や家族の問題等が上乗せされており、まずこれらへの対応が重要です。また繊細な子どものうち2割は発達障害の診断をもち、1割は高い不注意傾向をもつので、これらへの対応も必要です。適切な支援があれば、3割の子どもは困り感なく暮らせる一方、5割の子どもは登校に結びつきません。このようなHSPの多様な姿と彼らの生きがいについてお伝えします。

9回目 2027年1月10日 伊丹昌一先生 梅花女子大学 心理こども学部教授

発達障害児非認知能力を高めるアプローチに関しては本人が自分の強み弱みを知り（自己理解）、様々な活動に対する成功体験から自尊感情を高めていくことが需要だといわれています。発達障害児の自己選択、自己決定、自己理解からの自尊感情の向上についてお話ししたいと思います。

10回目 2027年2月14日 新井肇先生 関西外国語大学外国語学部教授

『いじめ防止対策推進法』の成立から12年、『生徒指導提要』の改訂から3年が経過し、各学校において、いじめの積極的な認知と解消に向けた取り組みが進められていますが、自殺などの深刻な事態の発生は後を絶ちません。そのようななかで、2024年9月に「重大事態の調査に関するガイドライン」が改訂されました。このような状況をふまえて、これからのいじめ防止対策の方向性と課題について、「いじめの重大事態化をどう防ぐか」ということを中心に考えてみたいと思います。

なら思春期・不登校支援研究所 とは…

本研究所は、子どもたちを支える保護者や、教員・スクールカウンセラーなどの専門職をサポートするための研修の機会を提供します。職種や立場をこえて、みんなで学び支援の輪を広げていくための、拠点の一つとなれることを目指しています。

アドバイザー：伊藤美奈子・粕谷貴志・栗本美百合・阪中順子・相馬誠一・竹下三隆・良原恵子（五十音順）

